

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査における佐賀県の結果について

1 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査

当調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施したものです。

- (1) 調査実施日 平成31年4月18日（木曜日）
- (2) 調査方式 悉皆調査方式（全数調査）
- (3) 調査の対象

小学校6年生、義務教育学校前期課程6年生、特別支援学校小学部6年生
中学校3年生、義務教育学校後期課程3年生、特別支援学校中学部3年生

- (4) 県内公立学校の実施学校・児童生徒数（分校を含む。）

	佐賀県（公立）		全国（公立）	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	165校	7,544人	19,263校	1,028,609人
中学校	93校	7,019人	9,513校	939,166人

（注）・佐賀県の公立小学校数は、義務教育学校前期課程（6校）、県立特別支援学校小学部（5校）を含みます。

・佐賀県の公立中学校数は、義務教育学校後期課程（6校）、県立中学校（4校）、県立特別支援学校中学部（2校）を含みます。

2 佐賀県の結果概要

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

(1) 教科に関する調査の結果

佐賀県の今年度の状況について、区分ごとの平均正答率を全国と比較すると、小学校6年生では、「国語」で全国平均以上となりました。また、中学校3年生では、全ての区分とも全国平均を下回りました。

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果

区分		平均正答率（％）		平均正答数	
		佐賀県（公立）	全国（公立）	佐賀県（公立）	全国（公立）
小学校 6年生	国語	64	63.8	9.0／14問	8.9／14問
	算数	66	66.6	9.2／14問	9.3／14問
中学校 3年生	国語	71	72.8	7.1／10問	7.3／10問
	数学	57	59.8	9.0／16問	9.6／16問
	英語	51	56.0	10.8／21問	11.8／21問

- (注)
- ・今年度から、知識に関する問題と活用に関する問題が一体的に問われています。
 - ・都道府県別の平均正答率は、文部科学省から整数値で提供されています。
 - ・平均正答数は、児童生徒の正答数の平均です。
 - ・平均正答数は四捨五入した値であるため、それをもとに平均正答率を求めた場合、上記の数値と異なる場合もあります。
 - ・英語は、「聞くこと、読むこと、書くこと」に関する問題です。（3年おきに実施）
 - ・英語の「話すこと」の調査結果については、都道府県別の平均正答率は文部科学省から公表されていません。

- 国語は、小学校では、文脈を捉えて漢字を書いたり、話し手の意図を捉えて自分の考えをまとめたりする問題の正答率は高い傾向にありますが、目的に応じて文章の内容を読み取ったり、話す内容を工夫したりする問題の正答率は低い傾向にあります。
また、中学校では、文章等の情報を整理して概要を捉えたり、自分の考えをもったりする問題の正答率は低い傾向にあります。
- 算数・数学は、小学校では、基本的な計算やグラフを読み取る問題の正答率は高い傾向にありますが、複数のグラフを関連付けて読み取ったことを記述したり、解釈した内容を踏まえて説明したりする問題の正答率は低い傾向にあります。
また、中学校では、事柄や結論が成り立つ理由を説明する問題の正答率は低い傾向にあります。
- 英語は、まとまりのある文章を聞いて概要を捉えることや資料から読み取った内容を英語で理解したり、自分の考えを英文で書いたりする問題の正答率は低い傾向にあります。

※ 参考

平成31年度（令和元年度）佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査]の結果について

[各学年・各教科の県平均正答率]

学年	小学校5年生		中学校1年生		中学校2年生	
教科	国語	算数	国語	数学	国語	数学
県平均正答率(%)	65.3	65.3	71.7	67.2	61.8	58.4

(2) 生活習慣や学習環境等に関する意識調査の結果

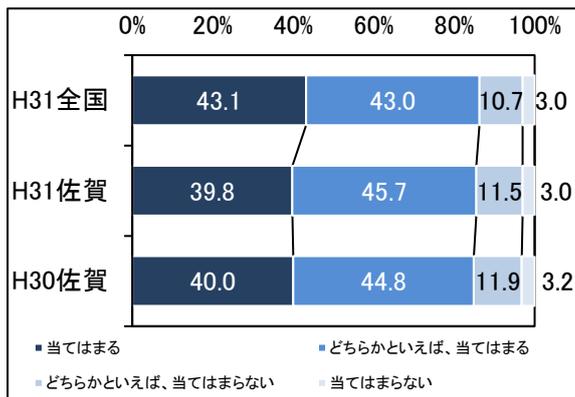
① 自己肯定感の向上に関して

(グラフ1) 児童生徒質問紙

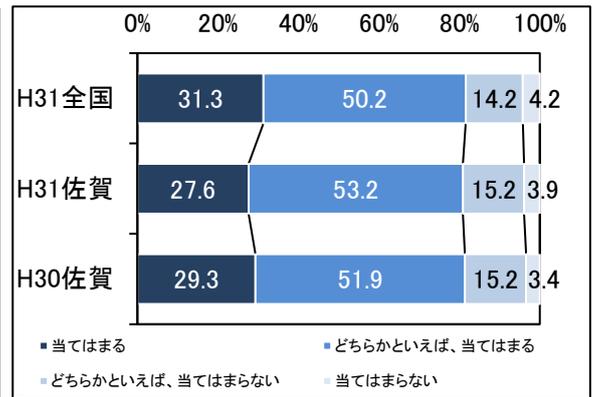
○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合で見ると、小学校6年生、中学校3年生ともに、平成30年度と比べて同程度であり、全国平均と同程度です。

《小学校6年生》



《中学校3年生》

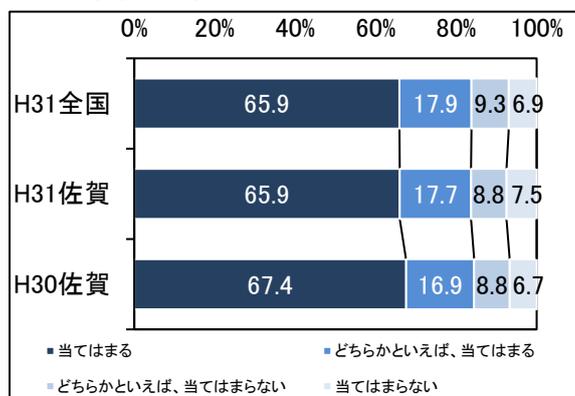


(グラフ2) 児童生徒質問紙

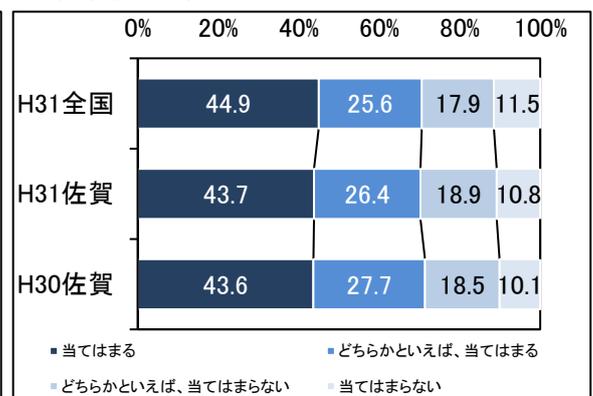
○将来の夢や目標を持っていますか。

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合で見ると、小学校6年生は、平成30年度と比べて同程度であり、全国平均と同程度です。中学校3年生は、平成30年度と比べて減少しており、全国平均と同程度です。

《小学校6年生》



《中学校3年生》

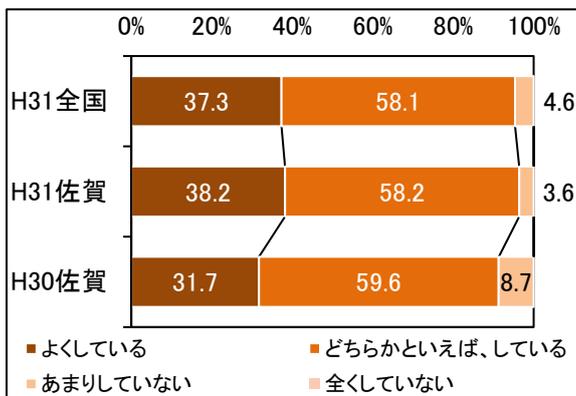


② 全職員による共通理解と共通実践に関して
 (グラフ3) 学校質問紙

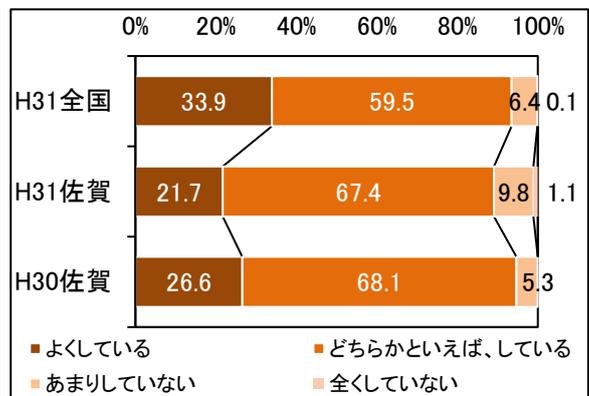
○児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、
 教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイ
 クルを確立していますか。

「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合で
 見ると、小学校は、平成30年度と比べて大幅に増加しており、全国平均を上
 回っています。中学校は、平成30年度と比べると大幅に減少しており、全国
 平均を下回っています。

《小学校》



《中学校》

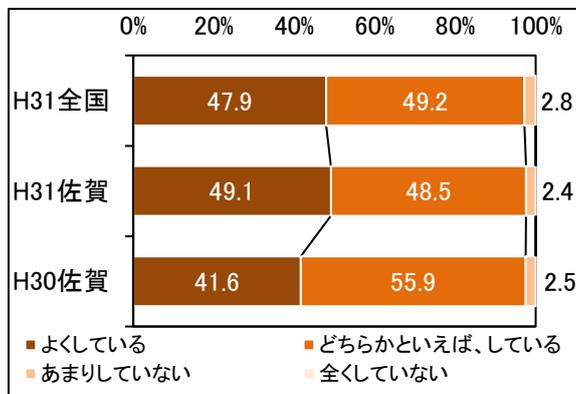


(グラフ4) 学校質問紙

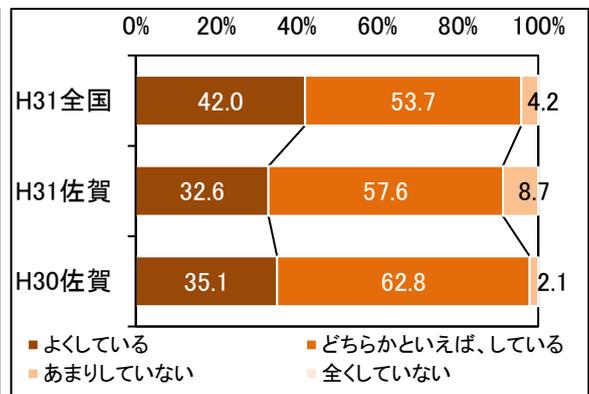
○学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し
 合っていますか。

「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合で
 見ると、小学校は、平成30年度と比べて同程度であり、全国平均と同程度です。
 中学校は、平成30年度と比べると大幅に減少しており、全国平均を大きく下
 回っています。

《小学校》



《中学校》

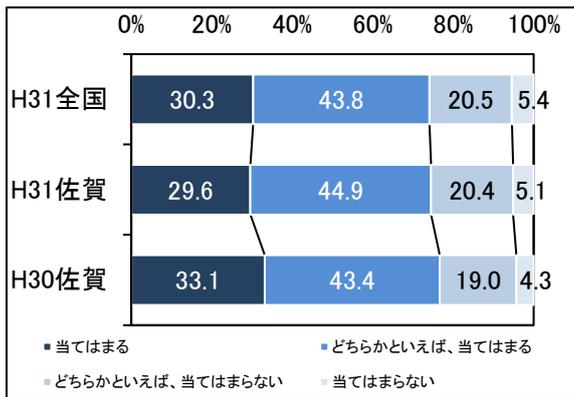


③ 学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践に関して
(グラフ5) 児童生徒質問紙

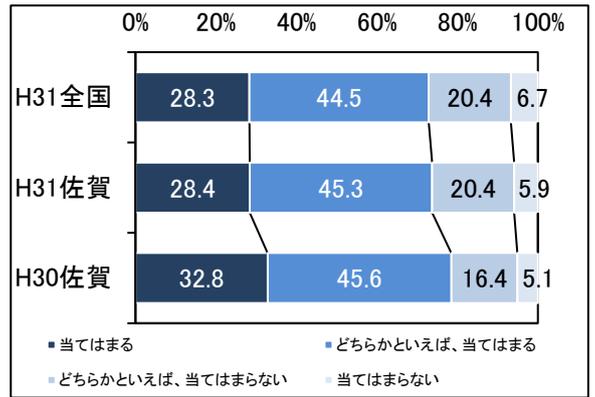
○学級の友達との間(生徒の間)で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合で見ると、小学校6年生、中学校3年生ともに、平成30年度と比べて減少しており、全国平均と同程度です。

《小学校6年生》



《中学校3年生》

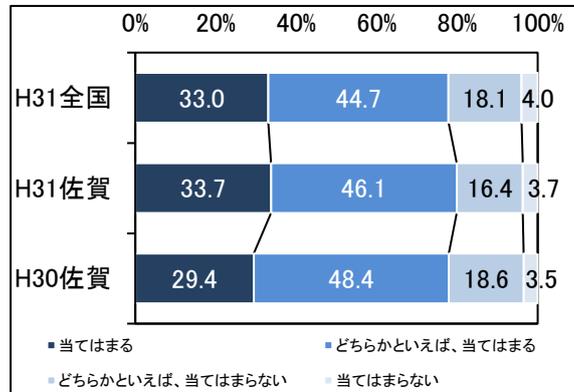


(グラフ6) 児童生徒質問紙

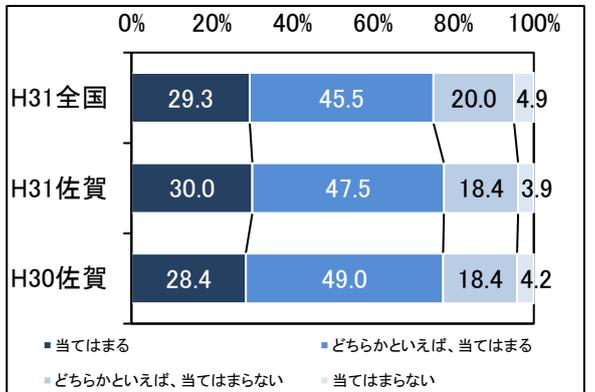
○授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合で見ると、小学校6年生は、平成30年度と比べて増加しており、全国平均を上回っています。中学校3年生は、平成30年度と比べて同程度であり、全国平均を上回っています。

《小学校6年生》



《中学校3年生》

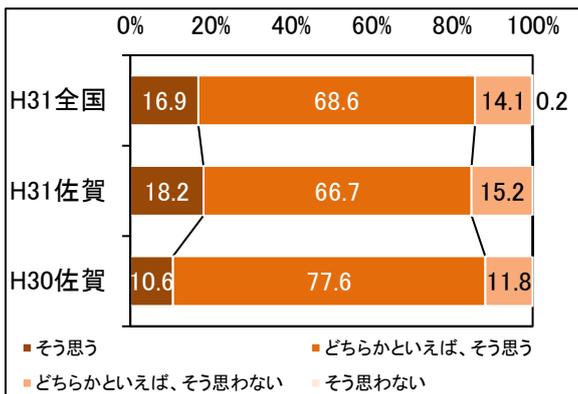


(グラフ7) 学校質問紙

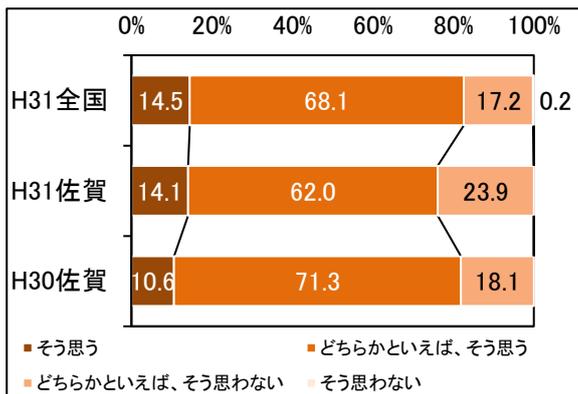
○児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。

「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合で見ると、小学校は、平成30年度と比べて減少しており、全国平均と同程度です。中学校は、平成30年度と比べると大幅に減少しており、全国平均を大きく下回っています。

《小学校》



《中学校》



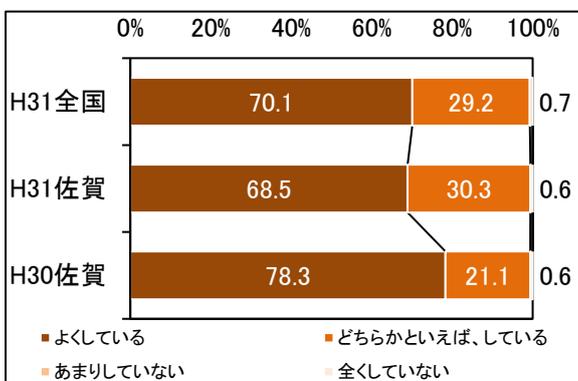
④ 授業改善に向けた校内研修等の充実に関して

(グラフ8) 学校質問紙

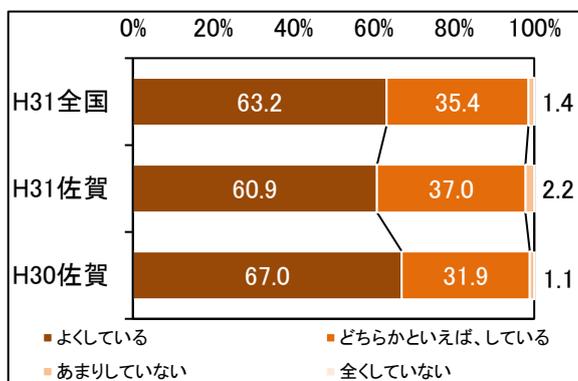
○校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか。

「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合で見ると、小学校は、平成30年度と比べて同程度であり、全国平均と同程度です。中学校は、平成30年度と比べると減少しており、全国平均と同程度です。

《小学校》



《中学校》

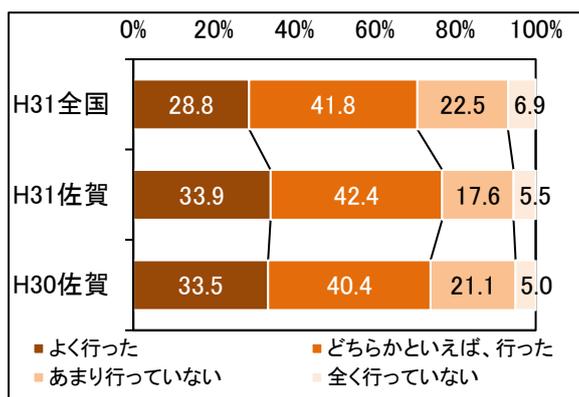


(グラフ9) 学校質問紙

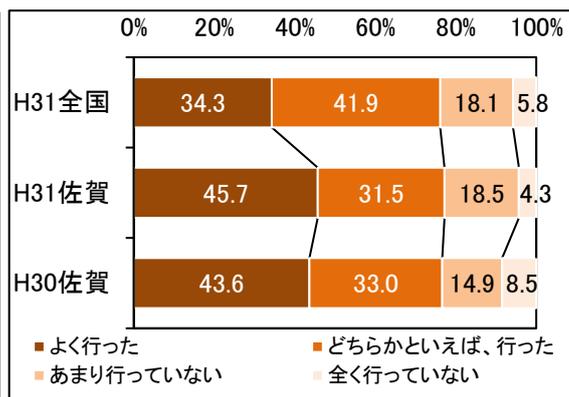
○近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。

「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合で見ると、小学校は、平成30年度と比べて増加しており、全国平均を大きく上回っています。中学校は、平成30年度と比べると同程度であり、全国平均を上回っています。

《小学校》



《中学校》



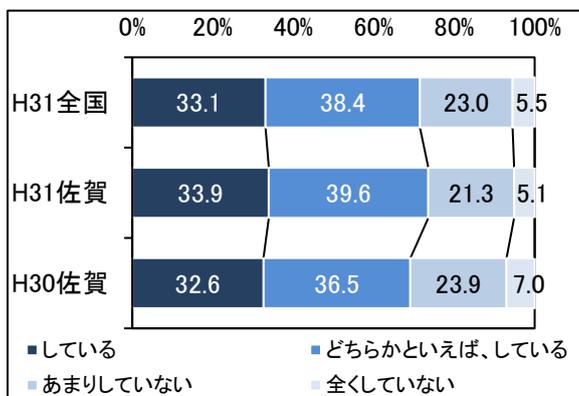
⑤ 家庭学習の充実に向けた指導の徹底に関して

(グラフ10) 児童生徒質問紙

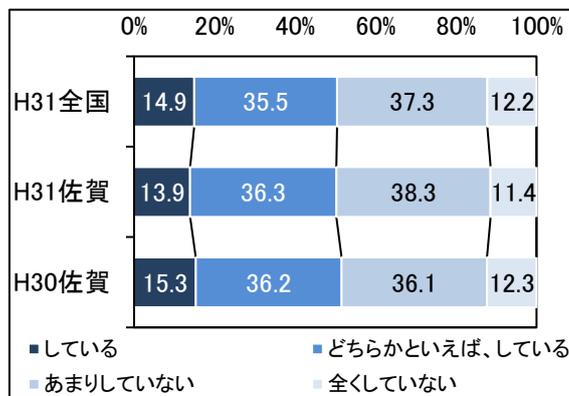
○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合で見ると、小学校6年生は、平成30年度と比べて増加しており、全国平均を上回っています。中学校3年生は、平成30年度と比べて減少しており、全国平均と同程度です。

《小学校6年生》



《中学校3年生》

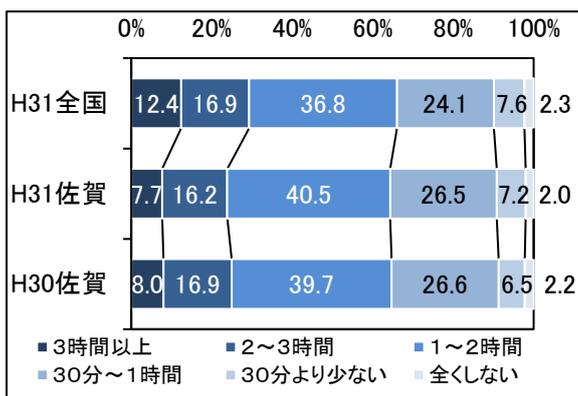


(グラフ 1 1) 児童生徒質問紙

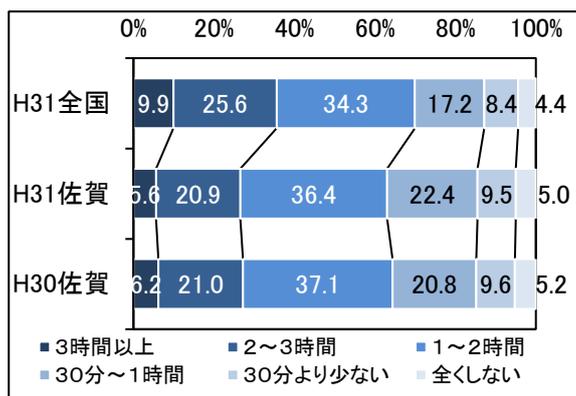
○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）

「1時間以上勉強している」と回答した児童生徒の割合で見ると、小学校6年生は、平成30年度と比べて同程度であり、全国平均を下回っています。中学校3年生は、平成30年度と比べて減少しており、全国平均を大きく下回っています。

《小学校6年生》



《中学校3年生》

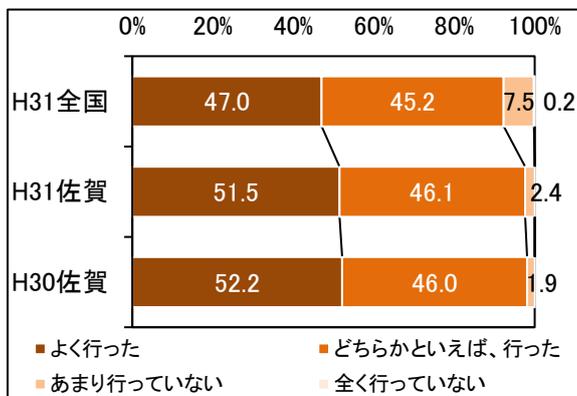


(グラフ 1 2) 学校質問紙

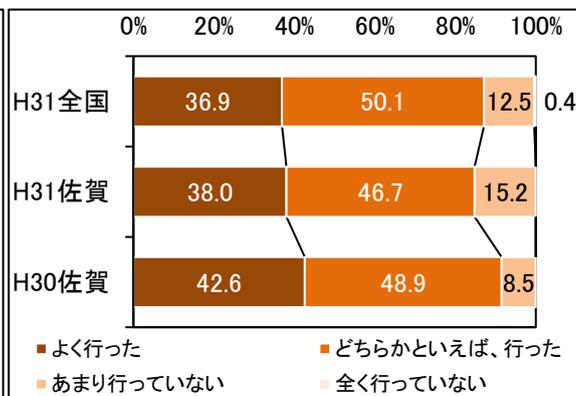
○家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。

「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合で見ると、小学校は、平成30年度と比べて同程度であり、全国平均を大きく上回っています。中学校は、平成30年度と比べると大幅に減少しており、全国平均を下回っています。

《小学校》



《中学校》



3 調査結果の評価と今後の対応方針

県教育委員会では、これまで佐賀県における学力向上重点対策に基づき、調査結果を活用した授業改善や学力定着に向けた組織的・継続的な取組の推進に努めてまいりました。

こうした取組により、児童生徒の学力・学習状況は、改善の方向に向かっていますが、その成果がまだ明確に表れているとはいえません。

県教育委員会としては、学力向上対策が実を伴った取組として全県展開されるよう、学校、市町教育委員会、家庭・地域と連携しながら、これまでの取組の継続と徹底を図るとともに、以下の取組の質を高めながら総合的に学力向上を図っていきます。

(1) 全職員による共通理解と共通実践

全ての学校において、全所属教員が学力向上対策評価シートを確実に活用することにより、課題解決に向けた取組内容等について、共通理解し、共通実践できるよう取組を徹底します。

(2) 学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践

全ての学校において、授業改善リーフレットの活用の質を高めることにより、新学習指導要領の求める資質・能力の育成に向け、児童生徒の興味関心を引き出し、分かりやすい授業の実践を一層推進します。

(3) 授業改善に向けた校内研修等の充実

各学校において、課題解決に向けた教材研究や評価問題の作成など、新学習指導要領の趣旨を踏まえた研修の一層の充実が図られるとともに、日々の指導状況や児童生徒の理解度の振り返りが的確に実施されるよう学校の取組に対する支援を強化します。

(4) 家庭学習の充実に向けた指導の徹底

各学校において、家庭学習の内容や方法の工夫改善、PTAとの協働による『家庭学習の手引き』の活用促進、家庭での適切な学習時間の確保や自己有用感の醸成など、家庭と連携した取組に対する支援を強化します。

教育庁教育振興課